

「安全に我が家へGO！災害時徒歩帰宅支援マップ」

応募チーム名：Code for SUSONO：静岡県裾野市

(特徴)

市外からの通勤者も多い裾野市では、災害時には避難所の収容人数が逼迫し、多くの人が徒歩での帰宅を目指すと思定される。しかし、防災マップは自治体ごとに作成されていることに加え、安全に歩行できる

No.	徒歩帰宅ルート検討の10項目	情報の有無	情報の使用可否	得意分野	所属
1	歩行可能な道がわかる	○	×⇒▲	×⇒▲	行政
2	フットで歩き難い道がわかる	×⇒▲	×⇒○	×⇒▲	自分
3	危険な箇所がわかる	○	×⇒▲	×⇒▲	行政
4	休憩できる場所がわかる	×⇒▲	×⇒○	×⇒▲	自分
5	トイレの場所がわかる	×⇒▲	×⇒○	×⇒▲	自分
6	自動販売機の場所がわかる	×⇒▲	×⇒○	×⇒▲	自分
7	コンビニ（徒歩帰宅支援ステーション）の場所がわかる	×⇒▲	×⇒○	×⇒▲	自分
8	道路灯のある夜でも明るい道がわかる	○	×⇒▲	×⇒▲	行政
9	行政境界に隣接なく周辺市町村の境界も同様わかる	▲⇒○	×⇒▲	×⇒▲	行政
10	防災発生時にスマホから上記情報が位置とともに確認できる	—	—	(除外)	—

道路や、利用できる店舗等の「欲しい情報」を得るのが困難であることから、避難する市民目線で求められる情報の整理、及びそれらを誰もが自由に閲覧・活用できるプラットフォームの構築を目的として活動している。自治体や企業が把握していないデータについてはチームメンバーが実際に現地を訪れて調査しており、今後は市内の企業等と連携し、更なるデータの収集や議論を進める予定である。

(アドバイス)

1. まちあるきを通した防災情報の収集体験を広げ、データの充実を図る

アイデアの特徴として、災害時に必要となるデータの種類を先に考え、データとして存在しない項目については自分たちの力で収集するという点が挙げられます。チームの皆さんが行ってこられたような自分の足で情報を集めるという体験が、いざという時の行動に影響を与え、結果的に多くの命を守ることに繋がると期待されます。今後地域の様々な企業の従業員にも街を歩き防災情報を収集する活動を広げ、オープンデータの更なる充実を図ってはいかががでしょうか。また、そうした機会に地元の住民の皆さんとの交流を図ることも、地域防災の観点から有益であると考えられます。

2. マイルストーンを設定し、それに向けたスケジュールを検討する

今年度の活動について、現時点では具体的な目標を定めてはいらっしゃらないとのことでしたが、1.のような活動を展開するにあたって、この機会に設定されてはいかががでしょうか。活動を広げていくためには多くの関係主体との連携が必要となるため、それを見据えたスケジュールの検討をされることを望みます。

3. 新型コロナを契機にした感染症への対応を踏まえた新たな避難計画への活用を模索する

感染症対策の観点から分散避難の必要性が生じており、この活動により収集されつつある情報の有用性が更に高まると考えられます。分散避難に適した場所を市民自らが判断する材料としてのデータのプラットフォームを公的な計画の中に位置づけることを模索されてはいかががでしょうか。

4. 裾野市役所への期待

裾野市役所では、これまでも職員が、自らの担当する部署に関連する課題を明確化した上で、その課題を解決するために必要なデータを考えるトレーニングを研修として実施したり、Code for Japan との間で協定を締結したりと、データ分析に対する行政内部の意識を改革するための様々な取り組みを実施されてきました。こうした役所内活動と市民のデータ活用の連携を強めていく施策を更に強化されるとともに、周辺や全国の自治体にも意識を広めていくための主導的な役割を果たされることを期待致します。